

暮らし美味しい美山郷

— 福井の奥座敷から地区文化の発信 —

美山公民館

1 美山地区の概要

昭和30年2月、足羽郡の下宇坂村・上宇坂村と、大野郡の芦見村・羽生村・上味見村・下味見村が合併して美山村ができ、昭和39年9月には町制施行によって美山町になった。その後、平成の大合併が進められ、平成18年2月1日に福井市と合併し、美山村誕生より50年で美山町は閉じ、福井市の美山地区として新たなスタートを切ることになった。

福井市の最も東部に位置する美山地区は、福井市全体の面積の約4分の1を占める。その大部分は山林であり、県下でも有名な美山杉として美しい森林を成している。夏には溪流にたくさんのホタルが飛び交い、足羽川中流域として四季折々の素晴らしい風景を醸し出し、心休まる場所となっている。

下宇坂、上宇坂、芦見、羽生、上味見、下味見、それぞれの地区は独特の歴史と文化を有する広い中山間地域である。かつては、6地区それぞれに小学校や公民館があったが、現在は、3小学校に統廃合されている。各地区にはコミュニティ活動の拠点として分館が配置され、美山公民館と6分館が連携しながら地域づくりを進めている。

地区内全域で少子高齢化が進んでいる。令和元年9月1日現在、人口は3,968人、世帯数は1,396戸である。

2 地域の特色ある事業

(1) 美山R158フラワーロード花壇活動

国道158号線の三万谷～市波間は、美山の玄関口。美山に住む人、美山を訪れる人の目を喜ばせるために、連合婦人会などが中心となって、沿道に花を植える活動が平成9年に始まった。徐々にフラワーロードの箇所が増え距離は延び、花壇の面積が広がっている。春はパンジーやキンセンカ、夏から秋にかけてはマリーゴールドや日々草の鮮やかな花々が沿道を飾る。

近年は「美山を美しくする会」の会員が中心となり、地域のボランティア、小学校・中学校の児童生徒、PTA

会員等が作業に参加している。花壇の地拵えに始まり、定植活動、除草作業、枯れた花の抜き取り等を行っている。また、種蒔きからポット上げ、花苗にするまでは、「美山を美しくする会」の会員と地域のボランティアが公民館で行い、例年、約8,000株の花苗を準備している。

地域ボランティアは、「フラワーロード年間ボランティア」として美山公民館だよりで募集する。たくさんの方が、車窓から見えるきれいな花を楽しんでほしいという思いをもって、作業に汗を流している。



(2) みやまふるさとスケッチ大賞

美山が誇る洋画家・豊田三郎画伯の指導のもとで美山を描き競う、「みやまふるさとスケッチ大賞」が平成12年から行われてきた。平成18年に福井市に合併して、スケッチ大会は福井市美山公民館の最初の主催事業となった。美山地区の自然を描くのが条件で、5月に写生会を、8月に作品展覧会と表彰式を行ってきた。

また、入賞作品は、地区文化祭でも特別展示した。平成27年に画伯が107歳で亡くなり、平成28年の「第17回みやまふるさとスケッチ大賞」で幕を閉じた。



現在は、画伯のこれまでの業績を顕彰し郷土の文化に寄与することを目的として、地区内の有志と画伯にゆかりのある人たちが「豊田三郎顕彰会」を立ち上げた。平成29年には、豊田さんを偲んだ特別展を、美山地区文化祭に合わせて美山公民館で開催した。未発表の作品や愛用のパレットや筆などを展示した。また、平成30年の文化祭では、豊田三郎特別展として、親族から福井市へ寄贈された絵画作品と遺品の一部を展示した。

多くの方に豊田芸術の一端に触れていただくことができた。今後も地区文化祭での特別展を継続したいと考えている。

(3)「そばまつり in みやま」と「美山地区文化祭」

10月最終日曜日に、「そばまつり in みやま」と「美山地区文化祭」が、「みやま木ごころ文化の郷」で盛大に開催される。そばまつりは公民館前広場で、文化祭は公民館・

木ごころ文化ホール・美山図書館を使用して行っている。例年、



地区内外から多くの人がこの催しに訪れている。

そばまつりでは、地区内のそば愛好会などが出店し、県推奨品種に指定されている美山南宮地在来の地元産そば粉を使用した手打ちそばを提供している。美山地区では石臼としては最高の小和清水(こわしょうず)石を産出し、そば打ちに欠かせない美味しい小清水は至る所に湧き出ている。このような宝物に人々の意気込みを加え、そば文化を発信している。

地区文化祭は「区民ひとり一文化創造」をテーマに、幼児から小中学生、一般の方のステージ発表や作品展

示、公民館自主グループの活動発表等が行われる。エコラフトや囲碁などの体験教室も



行われ、文化祭が地区の文化の発信の場となっている。

(4) 教育事業 (郷土学習)

美山地区には、800年以上の歴史をもつ伝統野菜「河内赤かぶら」を使った秘伝の味がしっかりと受け継がれている。年輩者から若い者に伝えたい地域に根ざした食文化を講座として取り上げ、伝承料理教室を実施している。平成30年度は、「山菜を使った郷土料理」

「夏野菜の料理(たくさん収穫した夏野菜の調理法・保存法)」「昔ながらの伝承料理(昆布巻きとおはぎ)」「体にやさしい大豆を



使った料理(打ち豆の野菜スープ)」の内容で、4回行った。参加者からは、「調理法がワンパターンになっていたが、他の受講者の話を聞いて参考になった」「昔から伝わる伝承料理は、時間はかかるが、次の世代に伝えていきたい」などの感想が聞かれ、好評であった。

令和元年度は、地区の特産品である「美山しめじ、ショウガ、そば」を扱った内容を計画している。

3 分館と連携した地域づくり

小学校区ごとに公民館を置くと、下宇坂・羽生・美山啓明の3公民館となり、芦見・上味見・下味見には地区の拠点がなくなることが懸念された。この3つの地区の振興を図るためにも、美山町時代と同じように中央に美山公民館を置き、6つの地区に分館を置くことになった。美山公民館の3人の主事が2分館ずつを担当し、各分館長と連携しながら地域の状況に即した事業の企画・運営にあたっている。

下味見の「ふれあい祭り」、芦見の「はな祭り」には、地域住民がこぞって参加して親睦を図っている。上味

見の「伊自良(いじら)祭り」では、「岐阜県伊自良の会」や福井工大生との交流



もありにぎわい、地区を盛り上げる行事となっている。

4 終わりに

美山地区は古来より独特の歴史と文化を有する広い中山間地域である。現在、少子化、超高齢化、限界集落等も含めて、地区内には特有の課題が山積している。

そんな中、美山公民館と6分館が連携を密にしながら、人々が元気で生き生きと生活ができ、誰もが「豊かな人生」を送ることのできる地域づくりをこれからも進めていきたい。

美山地区には、自然環境、歴史や文化など次代に引き継いでいきたい財産がたくさんあります。地区の方たちは、郷土への誇りと愛着を強くもっておられることを感じます。少子高齢化で人口減少が進む中、美山公民館が地域づくりの拠点としての重要な役割を担い、各分館と連携しながら成果を上げられることを願っております。